

# 天声人語について

34期生

## I テーマ設定の理由

日常生活の中の、何でもない些細な事から、僕達の力の及びもしない戦争や軍拡などの問題まで……それらを鋭い目で観察し、批判しているのがコラムである。たまたま、国語の授業でこのコラムについて勉強し、初めてじっくりと読む機会ができたことがきっかけで、この研究をすることにした。

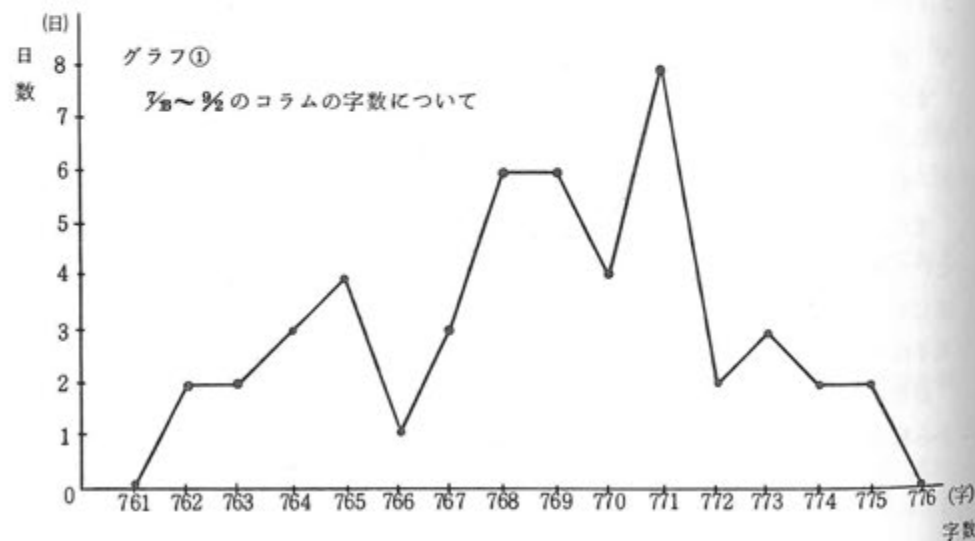
## II 研究方法

- ・ 字数・段落数を調べ、それぞれどのくらいのものが多いか調べる。
- ・ 内容を、自然・政治・社会・歴史・暮らしと文化の5つに分類し、更にそれらを幾つかに分け、どういう話題が多いか、ということ調べる。また、前記の5項目について、このコラムニストはどのような意見を持った人なのかということ、自分なりに推測してまとめる。
- ・ それぞれのコラムに、どういう工夫がなされているか調べてみる。また、主題にあった短歌や俳句やことわざなどがどのくらい引用されているか、それがどんな役割を果たしているかを考える。

## III 研究結果

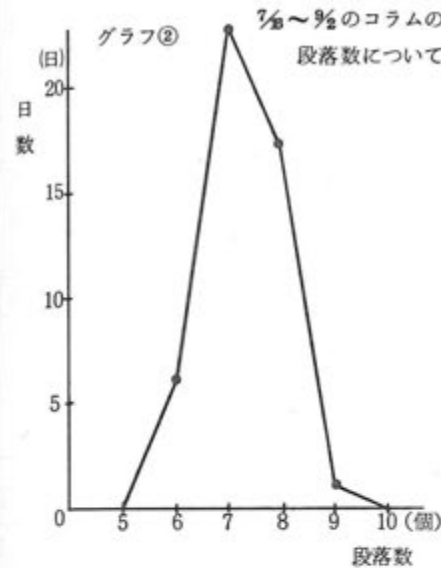
### (1) 字数・段落数の調査

① コラムの字数と段落数をグラフにした。



※ 最多字数…… 775字 (7/23, 8/17)  
平均…… 768.75字

最少字数…… 762字 (7/26, 9/2)



※ 最多段落数…… 9個 (7/22)

最少段落数…… 6個 (8/7・8/9・8/19・8/23  
8/24・8/26・8/27)

平均…… 7.27個

### ② 考察

グラフ①・②を見ていると、字数は770字前後、段落数は7~8段落が最も多い。

770字というのは、原稿用紙2枚弱で、何故このくらいがいいかというと、

- ① だらだらと長ったらしくない。
- ② (読み手にとって) 読みやすい。
- ③ 主題を収めるのに長くも短くもなく、適当である。
- ④ 毎日書いていく上で、比較的負担が少ない。

などのことからではないかと思う。

7~8段落が多いのは、別に特別な理由がある訳ではないと思うが、1つの段落があまり長いと読みにくいし、短いと全然意味のない段落になってしまうので、770字という字数から見ても、7~8段落が妥当だと思う。コラムを見ていると、最初に話のきっかけを書き、次の5~6段落で事実やそれに対する意見などの本論を書いて、そして最後に結論としてまとめているようである。

### (2) 内容について

① 7/16~9/2のコラムを、その内容によって分類してみた。

表 a

項目	小項目	日付			日数(日)
		7月	8月	9月	
A 自然	a 自然	22.25	3.7.11.16.21		7 4 10 } 21
	b 自然保護	16.25.26	4		
	c 自然と人間	20.29	4.7.8.11.16.22.30	1	

B 政治	a 防衛費・軍縮問題	16.21.24	6	2	5 } 6 } 5 } 6 }
	b 教科書検定問題	28	10.12.25.28.29		
	c 鈴木首相・政府批判 (a・b以外)	17	17.19.25.31		
	d 一般的な政治批判 (c以外)	18	1.5.12.19.26		
C 社会	a 教育	19	21.24.29.31	1	5 } 8 } 4 }
	b 人々の生活	29.30	5.20.23.30.31		
	c 犯罪		18.27.31		
D 歴史	a 戦争・原爆	28.31	13.15.26.29		6 } 5 } 5 }
E 暮らし・文化	a 暮らし	23	3.8.12.22	2	5 } 5 }
	b 文化	27	9.14.18.27		

表b

項目	日 付 け		
	7 月	8 月	9 月
I (長期継続的な問題)	19.20.22.23.26. 30.31	5.7.8.9.11.13.15.16.17.18. 21.22.23.24.30	1
II (時事問題)	17.24.27.28	1.10.14.19.25.27.28	
III (IとIIを兼ねているもの)	16.18.21.25.29	3.4.6.12.20.26.29.31	2

## ② 考察

表aを見ると、Aの自然とBの政治の項目が多い。自然については、このコラムニストが自然に興味を持っていること、自然の保護を強く望んでいること、長崎の豪雨や台風10号があったことなどが理由ではないだろうか。内容を見てみると、時事問題としての自然の話題はほとんどなく、大半が長期継続的な問題としてのものである(表bも参照)。やはり、筆者は、政治などの時事問題で特に重要なものがない時には、自然について、例えば破壊されつつある森林といったものについて書いていこうとしているのだろうと思う。

政治については、筆者が政治に不満を抱いていること、今、軍縮や防衛費増大、また教科書検定問題について大きな議論が巻き起こっていることなどのためだと思う。政治のもののほとんどがIIかIIIで、これは、筆者が1つ1つの問題を取り上げて批判し、そうすることによって、政府は小さな事柄からその態度を改めていくべきだということを示しているような感じがする。

少し不思議なのは、歴史の戦争・原爆の項目が少ないこと。政治の軍縮の項目では、かなり戦争や核兵器について詳しく書いているのに、第2次世界大戦や広島・長崎の原爆のこともあまり書いていないのは、終戦記念日のある8月にはおかしいような気がする。

③ 筆者の、A～Eの項目についての意見を、コラムから推測してまとめてみた。

## A 自然について

筆者は、自然破壊に対して、かなりの怒りを感じているようである。例えば、軍事費を減らして「緑の地球防衛基金」に回すべきだ(7/16)ということをも主張しているし、人々はみんな、自分で自分の首を絞めているのだ(7/26)とも言っている。また、長崎の豪雨の間接的な原因には、川の上流の緑を奪ったこともあるのではないかと、か、富士川の鉄橋の流失は砂利の採掘を必要以上にしたためではないか、などかなり鋭く追求している。このように自然保護を強く訴えている他にも、ヒマワリやハウセンカなどの植物や、流星・彗星といった宇宙のことなどの自然の美しさや、それに比べものにならない人間の愚かさを強調しているようである。しかし、ただ盲目的に動物を殺すな、森林を伐採するなど言っている訳ではない。7月29日のコラムでは、「鯨を殺すなど言っているが、鯨に頼って生活している人々のこともっと考えるべきだ」と言っている。つまり、不必要な自然破壊は決して許せないが、だからといって、「人間としての最低限の生活」を無視してはいけない、という考え方を持っているようである。

## B 政治について

軍拡を進めるアメリカ、ソ連や鈴木首相とか、教科書問題における政府の対応について等、かなり批判的である。政治についてのコラムは、鈴木首相に対して不満をぶつけているのが非常に多い。例えば、靖国神社の公式参拝のことや、国会でのあいまいな言動など、あらゆることについて、時には直接批判し、時には間接的に皮肉ったりしている。読んでいてなかなかおもしろいものや、感心させられるものもあり、よほど筆者は政治について詳しいのだろうと思う。

## C 社会について

政治のものと同様、今の世間に対してかなり批判的である。例えば、代行業に何でも任せられる傾向や、ゴキブリをむやみに殺すのに代表されるような、誰か1人を悪者にしてしまう風潮、自分で管理しなければならないものを自らの手で作り出しながら、結局、管理し切れない我々人間のことなど、ふだん、僕達が思いつかないようなことを取り上げて鋭く見つめることによって読み手をハッとさせるのである。何でも代行してもらおうことを、僕達は当たり前だと思っていて、なかなかその怖さには気付いていない。筆者は、そういう点にも目を向けて、少しでもたくさんの人々のことを人々に伝え、考えさせようとしているのだ。

## D 歴史について

このコラムニストは、もちろん戦争や原爆に対して批判的である。コラムを読んでいて気付くのは、戦争や原爆の悲惨な現実を、ありのままに客観的に述べ、紹介し、自分の考えをほとんど入れていないことである。これは、自分が考えを述べて読者を説得させようとするよりも、読者一人一人に考えてもらおうと思っているからではないだろうか。このように、A～Cの項目とは違った書き方をしているところから、筆者の、戦争や原爆に対

しての怒りは相当なものであるような気がする。

#### E 暮らし・文化について

特に深い考えや意見は持っていないようである。しかし、様々なことについて評価し、はっきりと自分の意見を述べていこうとする姿勢は見られる。例えば、ゴキブリを殺すのは日常的という感じで、何ら疑問を感じていないが、筆者は、ただ汚らしいというだけで何故むやみに殺すのかと問いかけている。また、「文化」というものを、「文化勲章」の「固苦しい文化」と、「文化鍋」の「気楽な文化」とにはっきり区別している。こういうところに、筆者の、冷静でユーモラスな人柄がうかがえる。

#### (3) 工夫について

- ① 各コラムについての、工夫されている点のまとめ
- ② 各コラムに見られる短歌・俳句・ことわざ・名言のまとめ
- ③ 考察

}紙面の都合上、省略

各コラムを読んでいて、よく工夫されていると感じる点は、僕達がふだん気付いていない事によく目を向けていることである。例えば、7/29のコラムでは、鯨の捕獲規制のかけで細々と生活している人々に注目しているし、8/13では、処刑された戦争犯罪人の遺族のことを話題にしている。こういうことは、表面にあまり出されず、常に事件の裏側にある。物事の表面だけでなく、裏の、人々の目の届かないところにある事がらまでも考え、そしてその考えを読者に伝えようとしているのは、長い間コラムを書いているうちにそういうことが身につけてきたからではないだろうか。恐らく、筆者は、自然にそういうふうな見方をすることができるようになってきているのだと思う。その点、やはりすごいと思う。

読者に分かりやすく読んでもらうために、筆者はいろいろな例文を引用したりしている。例えば、7/19のコラムでは、受験戦争の実態を、ある少年の話を例に挙げて説明しているし、8/4のコラムでは、人間は自然に逆らって力で抑えようとしてはいけないことを、武田信玄が自然の力に逆らわず、逆にそれを利用して成功した話を用いて訴えている。問題を直接書くのではなく、主題を簡単に説明する話によって分かりやすいものにしようとしている。そういう工夫がなされたコラムは少なくない。

逆に、事実をありのままに書いて、読者に考えてもらうことを目的としたコラムもある。7/31のものがそうである。このコラムでは、原爆を受けた人や物を展示した『原爆展』の様子を、客観的に述べていて、筆者の気持ちを表す文はほとんどない。これはやはり、「自分の考えを述べてそれを押しつけるのではなく、読者一人一人に、その人なりの考えを持ってもらおう」と考えた筆者が、意識的に書いたものであると思う。

短歌・俳句等のことを調べて思うことは、意外と短歌・俳句が少ない、ということである。初め考えていたより、ずっと少なかった。それらを見ていると、やはり、時候・季節にあったものばかりである。例えば、終戦記念日が近づけば戦争についての短歌が、また、自然についてのコラムでは夏の植物についての俳句が引用されている。それが実

にタイミングよく、しかも非常に主題にマッチした形で用いられていて、感心させられた。

工夫といっても、筆者にとってごく自然に出てくるものがほとんどであり、読者に分かりやすくすることは習慣となっていて、別に考えなくても自然と書けるのではないだろうか。調べていてそう感じた。

#### IV 結論

- ① コラムの字数は770字前後、段落数は7～8段落が多く、これらは、書き手にとって書きやすく、読み手にとっても読みやすい、適当な数字である。
- ② 内容は自然・政治のものが多く、筆者が特にそれらに興味を持っていることが分かる。自然に関しては、長期継続的なものが多く、政治では逆に時事問題が多い。これから、筆者は政治等の時事問題がないときは自然についてのことを何度でも書いていこうとしていることが分かる。
- ③ 筆者は、人々の目が届かないところにまで目を向けて、読者に考えさせようとしたり、分かりやすくするために短歌・俳句や例文などを引用したりして、とても工夫している。しかし、それらの工夫のほとんどは、筆者が長い間コラムを書いているうちに習得したものが自然と出てくるものであると考えられる。

#### V 反省・感想

まず反省しなければならないのは、コラムを自分で書いてみる予定だったのが、時間の都合でできなかったことである。計画では2～3編は書くはずだったのだが、他の事で時間をとりすぎたため（サボったため？）全く書けずに終わってしまった。それに、本来、こういう研究は毎日、こつこつとやっていくものなのに、僕の場合、後にためてやったので、ものすごく苦労した。こういうことは毎年、誰もが経験して分かっているはずなのに、なかなかきちんとできない。そのあたり、もっと考えるべきだった。

今年で自由研究も最後だったけど、今までの中では一番充実したものだ。かなり真剣にやったし、研究内容も、まあ自分で満足のいくものであった。ただもう少し内容を深めたり、もっと他のいろいろな事を調べればよかったと思う。